

在宅医療推進センターだより

小出病院内 TEL 025-793-7305 FAX 025-793-7244

在宅医療・介護に関わる全ての人の【何でも聞ける関係づくり】をめざし、『たより』を通じていろいろな情報を発信していきます。よろしくお願いします。

在宅医療推進センターの紹介

＜スタッフ＞

センター長(小出病院地域連携部長 医師)	林 純一	
コーディネーター(保健師)	佐藤 洋子	
コーディネーター(保健師)	北島 正子	

所在地	〒946-0001 訪問看護・リハビリステーションさくら内 魚沼市日渡新田 34 番地 魚沼市立小出病院内
電話番号	025-793-7305
F a x 番号	025-793-7244
E-mail	zaitaku@uonuma-medical.jp (佐藤) zaitaku1@uonuma-medical.jp(北島)
相談受付時間	月～金曜日 8時30分～16時

在宅医療・介護関係者の相談に応じます

医療と介護の相互理解や職種間の意思疎通が困難な場合など、多職種多機関が抱える課題に対して、より良い方向で検討できるようサポートします。

小さなことから
どうぞご利用
ください

ワーキングチーム会議を開催しました！

7月4日(水)16時～ 場所:小出病院

＜チーム員＞

医師会代表 中島脳外科内科医院院長
各区分別代表
訪問看護事業所代表
小出病院地域医療連携室
南部地域包括支援センター
魚沼市地域包括支援センター
健康福祉部

多職種連携を円滑に進めるため、地域の実情をよく理解しておられる皆さんにご協力をお願いしました。年間6回程度開催予定です。



メンタルバリアについては、医師会でも関心を持っている。

いろんな職種の人と話ができるということで、今日は楽しみにして来ました。

サービス利用中の急変時の対応に苦慮している。連絡フローがあいまい。

各職種 各事業所とも人材不足！



切れ目ない医療と介護を提供していくためには、各職種が専門性を発揮できる環境と職種間の良好な関係づくりが必要です。

ワーキングチーム会議で魚沼地域の課題やニーズを抽出・調査し、取り組むべき解決策を迅速に見出します。

医師等多職種連携懇談会を開催しました

●日時：7月25日(水)18時45分～20時15分 ●場所：UOSHIN(魚新)

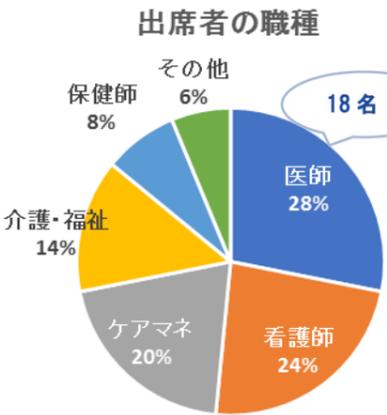
●出席者：64名(主催者含)

●ねらい

日ごろの報告・連絡・相談が円滑にできる。

●グループワークの目標

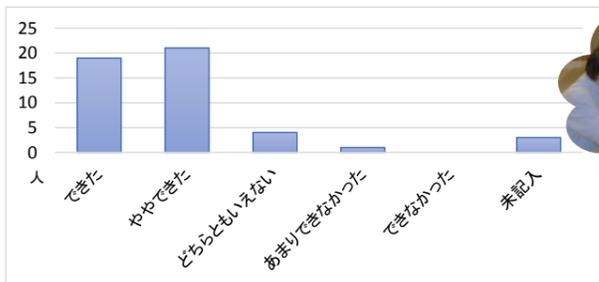
- ・全員が楽しく発言できる
- ・多様な意見を認め合う



●アンケート結果から

＜ご自分の意見や感じていることが発言できましたか＞

「できた」「ややできた」を合わせると83%になりました。



●グループワークの様子から、「楽しく発言できる」という目標は達成できたのではないかと感じました。



グループワーク・全体会から：日ごろの報連相・連携について

「何でも聞いて」と言ってるつもりだがなあ～



FAXについて

- ・緊急時は電話、その他はFAXと使い分けて
- ・「至急・確認・要回答」がチェックできる様式に
- ・あいさつ文、「いつもお世話に…」は不要
- ・時系列に、簡潔に、箇条書きで、何が言いたいかを記載して

患者の情報はどんどんいただきたい。「こんなことは失礼か」など思わず、何でも寄越せばよい。

医師は情報を待っている



聞きたいことをメモに整理して電話しているが、いざとなると萎縮する。何を聞いたら良いかわからなくなる。

元々顔の見える関係が構築できていたので、それが深まったのかなと思った。

電話の際、とても緊張します

出席者アンケートから

医師から積極的に情報をほしいと言われたので、今後心配なく発信ができます。

やはり遠慮はあります。

要点だけ簡潔に!! が大切だと思いました。

医師と多職種が意見交換できたことは、意義があったと思う。

利用者・患者の利益になるよう協働することが大切と思いました。

これから取り組むこと

①共通のFAX様式を作成

- ・要点を箇条書きに!
- ・文章の作り方も一緒に学びましょう

②利用者毎に一冊の共有ノート作成を検討

- ・情報共有を容易に。記録業務の効率化。

こんな意見もありました

- ・急変時の連絡体制を統一する必要あり
- ・バイタルサインのとらえ方・急変時の観察点等を学びましょう
- ・事業所の情報が一括してわかるシステムがあると良い